

1 校内研修プログラム作成の背景

平成32年度から実施される小学校学習指導要領では、新たに外国語活動(第3・4学年：年間35単位時間)・外国語科(第5・6学年：年間70単位時間)が必修化されます。

外国語教育における課題

平成23年度から外国語活動(第5・6学年：年間35単位時間)が必修化され、これまでの間、各区市町村では、適正な実施に向け様々な取組が行われてきました。その結果、「平成26年度小学校外国語活動実施状況調査の結果(概要)」(文部科学省)によると、「外国語活動に肯定的」、「将来、海外旅行や外国人との交流をしたい」、「仕事で英語を使いたい」と考える児童の割合が高いなど、小学生の外国語に対する意識の高まりが見られました。

一方、外国語を指導する教師からは、「英語が苦手である」、「準備等に負担感がある」という回答が多く見られ、今後の課題として「教師の指導力向上」、「教材・教具等の開発や準備時間の確保」、「外国語活動・外国語科に関する研修の必要性」等が挙げられました。

今後の小学校における外国語教育の充実を目指して

「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて(報告)」(文部科学省平成28年8月)では、「グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題である」とされました。

「東京都教育ビジョン(第3次・一部改定)」(平成28年4月)では、「『使える英語』を習得させる実践的教育の推進」を主要施策として、「平成28年度から各地区の中心的な役割を担う英語教育推進リーダーを配置・育成し、各地区の小学校教員の英語指導力の向上を図ること」を重要事項に位置付けています。それを受け、英語教育推進リーダーが地区の小学校を訪問し研修を行うなどしてきました。また、東京都教職員研修センターではOff-JTとして、小学校教員を対象に、「小学校外国語活動の基礎・基本」、「教科化に向けた小学校外国語教育の在り方」等の指導力を高める講座や、「英語力向上集中講座」、「英語カフェテリア講座」、「ONE DAY はじめての小学校英語講座」等、教員自身の英語力向上を目的とした講座を実施してきました。しかし、「英語が苦手である」と感じている教師が多いのが実情です。

そこで、本書は、Off-JTだけではなくOJTとして、校内で日常的に外国語活動・外国語科に関する研修を行うことができる内容を提案しています。本書を手掛かりに各小学校の実態に即して、研修内容を組み合わせ、外国語教育の研修が充実されることを期待しています。

●調査研究の結果●

「小学校 新学習指導要領に対応した『外国語活動・外国語科』充実のための校内研修ハンドブック」の作成に当たり、本書を都内公立小学校で活用できる資料とするために、各小学校における外国語教育に関わる取組や課題等を調査しました。

○調査時期 平成29年 8月

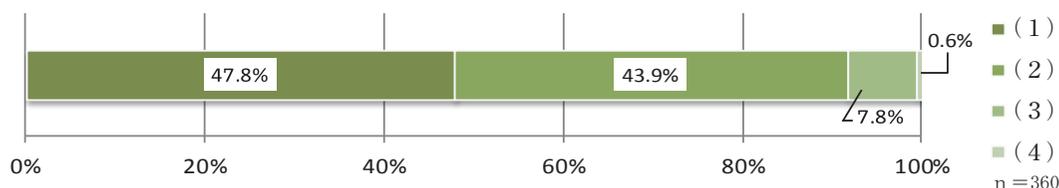
○対 象 都内小学校1,276校中、各区市町村から1校以上無作為抽出した計360校の管理職

調査結果

I 外国語教育の実施について

1 今年度（平成29年度）の外国語教育に関する教育課程上の実施状況

- (1) 外国語教育の実施は、順調である。
- (2) 外国語教育の実施は、おおむね順調である。
- (3) 外国語教育の実施に、やや課題が見られる。
- (4) 外国語教育の実施に、課題が見られる。

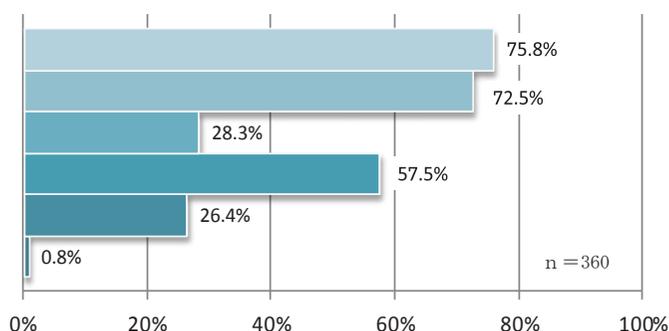


91.7%の学校が外国語教育の実施状況について「順調である」、「おおむね順調である」と回答した。

2 平成30年度からの外国語活動・外国語科の先行実施に向けた教育課程上の課題

(最大3つまで選択)

- (1) 年間指導計画、単元計画の作成
- (2) 時数の確保
- (3) 中学校英語教育との連携
- (4) 英語に関する校内研究の充実
- (5) 教材の選定
- (6) 課題はない

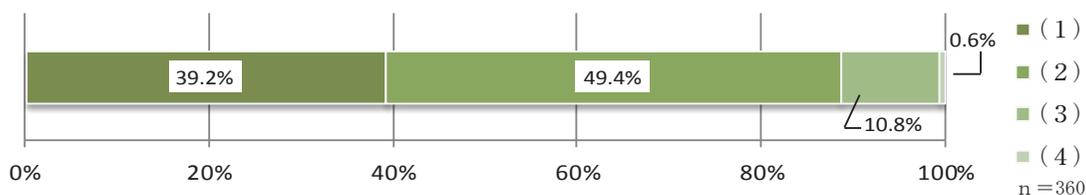


設問 I - 1 では、91.7%の学校が現在「順調である」、「おおむね順調である」と答えているが、設問 I - 2 では、平成30年度からの先行実施に向けた教育課程上の課題は様々見られた。

主な課題として、「年間指導計画、単元計画の作成（75.8%）」、「時数の確保（72.5%）」、「英語に関する校内研究の充実（57.5%）」が挙げられた。

3 今年度（平成29年度）の外国語教育に関する授業の状況

- (1) 外国語教育の授業の実施は、順調である。
- (2) 外国語教育の授業の実施は、おおむね順調である。
- (3) 外国語教育の授業の実施に、やや課題が見られる。
- (4) 外国語教育の授業の実施に、課題が見られる。

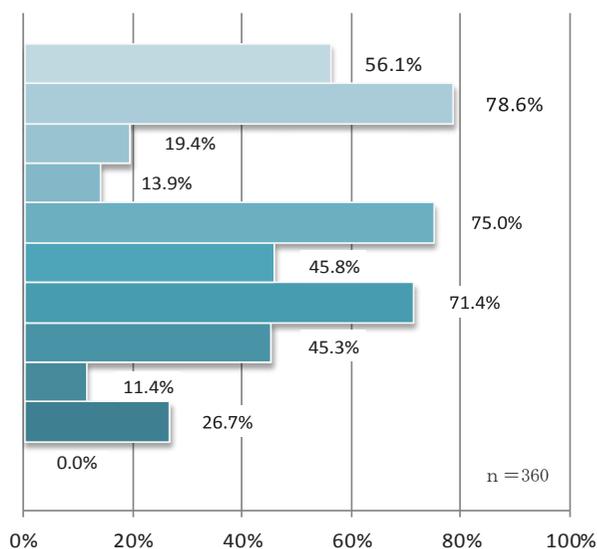


88.6%の学校が外国語教育に関する授業の状況が「順調である」、「おおむね順調である」と回答した。

4 担任が外国語の授業を進めるに当たっての課題

(最大5つまで選択)

- (1) 英語の発音
- (2) 英語を用いた児童への指示、説明
- (3) 英語を書くこと
- (4) 英語を読むこと
- (5) 教材の準備・活用
- (6) 1単位時間の構成
- (7) 評価について
- (8) ALT等との連携
- (9) ICT機器等の視聴覚機器の活用
- (10) 外国語教育についての理解
- (11) 課題はない

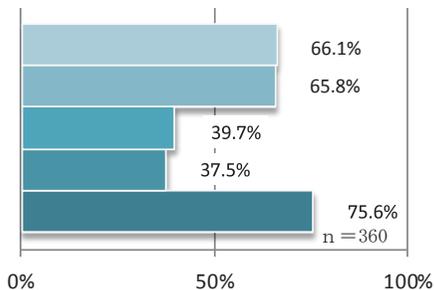


設問I-3では、88.6%の学校が「順調である」、「おおむね順調である」と答えているが、設問I-4では、担任が外国語の授業を進めるに当たっての課題は様々見られた。

主な課題として、「英語を用いた児童への指示、説明（78.6%）」、「教材の準備・活用（75.0%）」、「評価について（71.4%）」が挙げられた。

5 校務分掌で英語担当となった教員に期待すること

- (1) 外国語教育に関する研修会を運営すること
- (2) 外国語教育の年間指導計画を作成すること
- (3) 外国語教育の1単位時間の指導計画を作成すること
- (4) 外国語教育に活用できる教材を作成すること
- (5) ALT（外部講師）と連絡・調整すること



設問 I - 5 では、「ALT（外部講師）との連絡・調整（75.6%）」、「外国語教育に関する研修会の運営（66.1%）」、「年間指導計画の作成（65.8%）」が期待することとして挙げられた。

【自由記述】（一部抜粋）

- ・担任が一人で授業を展開できるように指導力を向上させる内容の研修会を開催すること
- ・校内研究（外国語活動）の推進
- ・補助教材（例えば Welcome to Tokyo）の効果的な活用を図ること

II 外国語教育に関する校内研修会について

6-① 今年度、外国語教育の校内研修会を行う回数

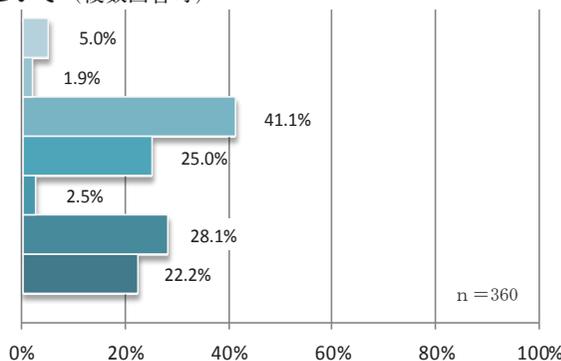


設問 I において具体的な課題を抱える学校が多い中、今年度、外国語教育に関する校内研修会を行う回数が0～2回の学校が73.6%であった。

6-② 6-①で(2)～(4)を選んだ場合のみ回答

外国語教育に関する校内研修会の担当者について（複数回答可）

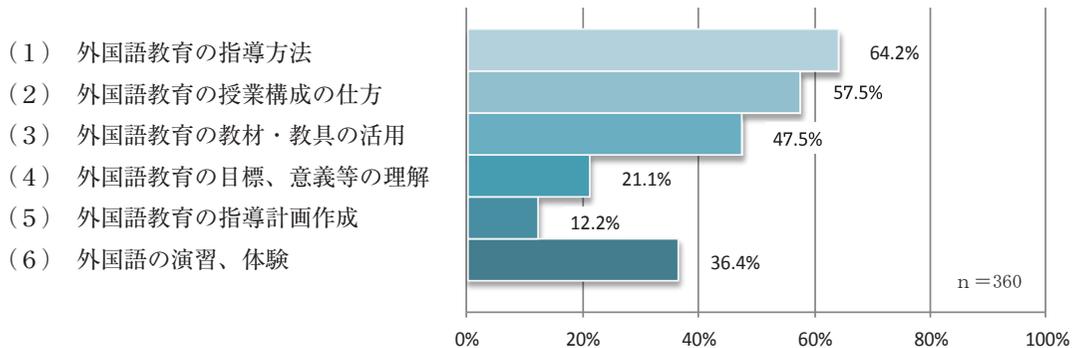
- (1) 管理職
- (2) 研究主任
- (3) 校務分掌で英語担当となった教員
- (4) 英語教育推進リーダー（自校の教員）
- (5) (2)～(4)以外の教員
- (6) 英語教育推進リーダー（他校の教員）
- (7) 外部講師



41.1%の学校で、英語担当となった教員が校内研修会を担当している。また、自校の英語教育推進リーダーが校内研修会を担当している学校は25.0%、他校の英語教育推進リーダーに自校の校内研修会を担当してもらっている学校は28.1%であった。

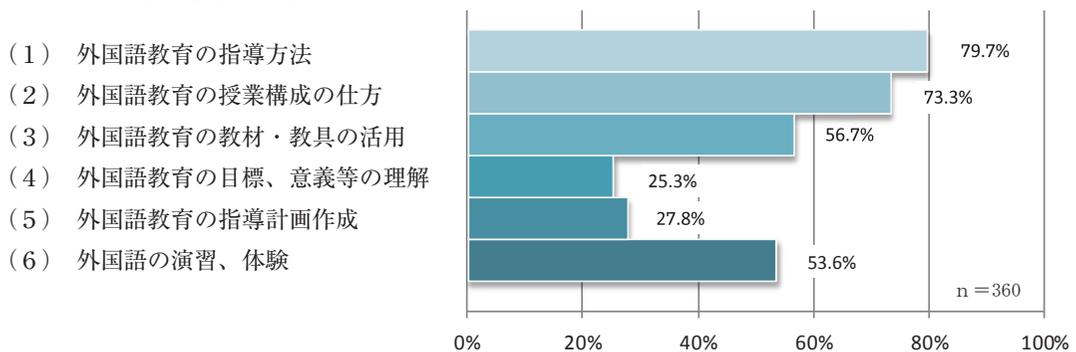
6-③ 6-①で(2)～(4)を選んだ場合のみ回答

どのような研修会を行っているか(複数回答可)



「指導方法(64.2%)」、「授業構成の仕方(57.5%)」及び「教材・教具の活用(47.5%)」といった内容の研修が多く実施されていた。

7 どのような研修会を行いたい(複数回答可)



「指導方法(79.7%)」、「授業構成の仕方(73.3%)」、「教材・教具の活用(56.7%)」、「演習、体験(53.6%)」に関する研修会を行いたいという回答が多く見られた。設問6-③と比べると、それぞれ現在行っている研修より「行いたい」と考えている割合が増加している。特に「演習、体験」は1.5倍であった。

【自由記述】(一部抜粋)

- ・新学習指導要領について(移行措置について)
- ・外国語活動・外国語科における評価について(評価の視点、評価の方法等)
- ・年間指導計画の見直しの方法
- ・教材の活用方法
- ・教師の英語の語彙力向上
- ・教材・教具づくりの方法
- ・クラスルーム・イングリッシュの活用
- ・英語での指示の仕方や褒め方の表現